

社会福祉法人 楽山会  
椎の実子供の家  
平成27年度 事業報告

平成27年度から施行された「子ども子育て支援新制度」を踏まえ、「すべての子どもたちの健やかな成長と保護者支援」「地域子育て家庭支援」に力を注いできた。また、社会情勢の変化に伴い、より社会のニーズに対応した保育園のあり方を、第二椎の実子供の家と合同でプロジェクトチームを立ち上げて調査・研究した。チーム構成はリーダー層を中心にし、8施設を訪問調査した。先進保育園視察結果を報告し合う等、園舎建替えに向けて2園全職員間で意識の一体化を図った。

また、法人の保育理念をよりよく実践していく人材の育成ための「椎の実子供の家・第二椎の実子供の家 職員研修計画書」を作成した。今後は、職種別・階層別の研修に計画書を活用していく。

平成27年度 重点目標

- I 生活や遊び、運動を通しての総合的な保育の充実
- II 衛生管理、安全管理の見直し及び強化
- III 人材育成のためのOJT及び研修
- IV 地域活動の取り組み
- V 椎の実子供の家 園舎建替事業

I 生活や遊び、運動を通しての総合的な保育の充実

保育計画を立てるにあたり、子どもと生活や遊びを共にする中で一人ひとりの子どもの心身の状態を把握しながら、その発達の援助を行うことができるよう、発達及び生活の連続性に配慮した保育を行った。生活や遊び、運動を通して総合的に保育を進め、健康な体づくりに力をいれた。このことで、自分を取り囲む事象や人に関心を持ち、心身共に調和ある人格形成へと繋げることができた。

II 衛生管理、安全管理の見直し及び強化

施設内の環境を常に適切な状態に保持するとともに、保健的環境の維持及び向上に努めた。安全については事故防止マニュアルや安全点検表の見直しを行い、早めに異常や破損に気付いたため、全職員で情報の共有を行った。その結果、大きなけがにつながる事故はなかった。災害に対しては「大災害も含めた防災マニュアル事業継続計画（BCP）」を作成し、防災の日に行う研修会で全職員に周知を図った。また自然災害や思わぬ事件、事故に備え保護者に対し子どもの身の安全について素早い対応をすることで安心感を持ってもらえるよう、「メール等一斉配信システム」を導入した。

### Ⅲ 人材育成のためのOJT及び研修

平成27年度よりクラスリーダーの位置づけを明確にし、よりリーダーシップが発揮できるようにした。職員一人ひとりが明確な目標に向かって職務を全うし職責を果たしていくために、上位者による1対1のOJTを実施し、これからの保育園を担う人材として成長していけるよう、指導していく体制を強化した。その結果、各リーダー自身に「人を育てよう」という機運が高まり、これを持続させることで、さらによい人材育成が出来るようになった。

また保育力の向上をねらい、専門講師（言語聴覚士）による、適切な子どもへの関わりを学ぶ機会を設けた。保育士が子どもへの適切な援助方法を学び、職員全員が一貫した対応ができるよう必要な知識を身に付けることができた。また、学んだ知識や技術などを実践に結び付ける努力をした。その他大学講師を招き保育や食育の質を高める講座を開催した。

去年開催することができなかった両園での公開保育も実施した。適度な緊張感を持ちながら、計画に沿った保育を行うことで、保育の振り返りや保育の質の向上を図ることが出来た。また、両園の保育士の資質をそろえることにも繋がった。

### Ⅳ 地域活動の取り組み

地域の子育て支援として子育て家庭に対し配布していた「しいのみクラブニュース」は園庭開放などで配布した。入園を意識した見学者にも、「しいのみクラブニュース」をお渡しすることで、興味を持ってその後も遊びに来ていただくことができた。一方、ホームページにも掲載する予定だったが、1年間継続できなかったのは課題である。

「高齢者との交流」や「小学生との交流」、「地域親子のサークル活動の支援」はこれまで大切にしてきた特徴ある事業として継続して行うことができた。地域の皆さんに喜んでいただけるとともに、園児の経験の幅が広がった。

土曜日の一時保育について、本園と第二椎の実子供の家の職員が連携して行った。

### Ⅴ 椎の実子供の家 園舎建替事業

概ね5年以内を目途として、園舎の建替に向けて動き始めた。保育園を運営しながら建替ができるように、拡張用地の獲得について検討を重ねてきた。また、本園と第二椎の実子供の家の職員により、園舎建替プロジェクトチームを組織し、当年度は施設見学を行った。それについては、平成28年2月21日に合同研修会を開催し、研究成果の発表を行った。さらに、外部講師をお招きし、幼児期に育むべき「自尊感情」について講演を行っていただいた。職員で建物や保育について学ぶ機会を持ったことで、建替事業について全職員の意識の一体化が図られた。